



目には見えない大切なもの

なぞなぞです。
「目には見えないけど、本当はあるものって何だ？」
下の詩を読んで、答えを考えてみてください。



青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
昼のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

ちってすがれたたんぼぼの、
かわらのすきに、だまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。



金子みすゞ 「星とたんぼぼ」

そう、なぞなぞの答えは「昼の星」と「たんぼぼの根」です。この詩を初めて目にしたとき、作者である金子みすゞさんの感性にとても感心しました。また、この詩は、私に「目には見えないけれど実際に存在するものにはどんなものがあるか」を考えるきっかけをくれました。皆さんなら、このなぞなぞの答え以外にどのような答えを思い浮かべますか？

私がまず思い浮かべたのは「冰山」です。海に浮かぶ冰山は、確かに目に見えますが、海面上の目に見える部分はたった約1割程度で、あとの約9割は目に見えない海面下にあります。冰山の全体像を捉えるには目に見えない部分がどうなっているのかを調査しなければ分からないのです。

そして、もう1つ思い浮かべたのが「人」です。人も冰山と同様に目に見えない部分がたくさん存在しています。よって、目に見える部分だけでは人の全体像を捉えることはできないのです。「人は見た目（うわべ）だけでは判断することができない」と言われるのはそのためではないでしょうか。では、人の「目に見えない」部分とは何でしょうか。その1つは、形がないけれど存在している「人の気持ち（感情）や思い」がそれに当たるのではないのでしょうか。例を挙げれば「優しさ」、「思いやり」そして「愛」。逆に「悲しみ」、「恨み」そして「嫉妬」などです。人の気持ちを読み取るメガネのようなものがあれば、簡単に相手の気持ちが分かるのですが、現代社会においてそのようなものはありません。それでは、「目に見えない」人の気持ちを見える（理解する）ようにするにはどうすればいいのでしょうか。その答えを考えるヒントとなる次のような一文があります。

**「心で見なくちゃ ものごとはよく見えないってことさ
大切なものは 目に見えないんだよ」**

この一文は、ご存じの方もいるかと思いますが、フランスの作家、サン＝テグジュペリが書いた小説「星の王子さま」の中で登場するものです。この一文の言葉を引用させてもらえば、「目に見えない」人の気持ちを見えるようにする（理解する）ためには、「心の目」で見るのが大切です。人の気持ちを読み取るメガネはありませんが、相手の気持ちに寄り添い、自分の「心」と相手の「心」を通わせて相手を理解しようとすれば、相手の気持ちが見えてくることもあります。「心の目」の視力を高め、相手の「目に見えない」大切な部分に気づき、寄り添ってあげられる人間になりたいものです。

『人の気持ちは目に見えぬ。目には見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ』
目に見えないものこそ大切に。

10月10日は「目の愛護デー」です。ICTが発達した現代社会において目を酷使していませんか。これからもよりよい生活ができるよう「目に見える」ものを見る目と「目に見えない」ものを見る「心の目」の両方を大切にしましょう。

第41回 少年を非行から守る中学生防犯弁論大会

9月29日(金)甲府市総合市民会館において、「第41回少年を非行から守る中学生防犯弁論大会」を開催し、県下警察署管内で行われた地区大会の代表者13名が出場しました。代表者からは、中学生の視点で防犯や少年非行について、日頃考えていること、実践していること、体験を通して考えたことなどが発表されました。どの発表も甲乙付けがたい説得力のある素晴らしい内容の弁論でした。今回は傍聴校として、甲府市立南中学校1年生146名に参加をしていただきました。発表者はもちろんのこと、発表に真剣に聞き入る傍聴生の態度にも、拍手を送りたいと思います。

最優秀賞 心を繋ぐ言葉遣い

道志村立道志中学校2年
渡辺 脩大 さん

「あいつキモい」「うざい」このような言葉を聞くだけで私は、不快な気分と怒りが込み上げてくる。誰もが誹謗中傷をいけない事と理解する時代。それなのに、どうして連日のように誹謗中傷による報道が絶えないのか。皆さんはどう考えますか。

つい最近も、テレビで活躍していたタレントが自ら命を絶ってしまいました。「またか・・・。」というつぶやき。そしてネット上に書き込まれた誹謗中傷はもちろん、亡くなった後に書き込まれる「悲しい」「大好きだったのに」などの好意的なコメント。これらの言葉にはやり場のない怒りにも似た感情が湧いてきます。

ただ、そう思いはしても私も誹謗中傷を受けた人にも実際には何もできない状態でした。

そんなある日、何気なく友人たちと交わっていたSNSのやり取りに、「ウザい」「キモい」の言葉を見つけました。私の友人もその言葉を目にしました。悪い事、だめな事と分かりつつもその時私は「注意したら今度は自分が言われる・・・。」と思い、見なかったふりをしてその場をやり過ごしてしまいました。「その言葉良くないよ。」と注意するあと一歩の勇気が持てなかったのです。

「キモい」と発言した友人にとっては、軽いノリで言った言葉だったかもしれませんが、心ない言葉を向けられた仲間はどうか。「友達だから」という甘え。分かってくれるだろうという思い込み。何気なく放った言葉のナイフは、しっかりと本人の心を傷つけ、時には命さえも奪います。私は翌日、心ない言葉をかけられた仲間に勇気を出して声をかけました。もし、SNSのやり取りがきっかけで明日から学校に来られなくなってしまったら、命を落とし、二度と会えなくなってしまったら・・・そう考えると、その仲間は私のそばに居てくれる安心感と同時に言葉の恐ろしさ、仲間が傷つけられたときに保身に走った自分の情けなさなど様々な思いが込み上げてきました。

私も時折「親しいから。」とふざけながら悪口を言うてしまうことがあります。ただ、言われた側には言葉のナイフとして突き刺さり「冗談だと分かってくれるだろう。」という安易な判断や意識の薄さが、人の命をも奪うことに繋がる事。時には「すれ違い」や「誤解」が生まれる事。言葉は使えば伝わるのではない。私は「ことばの伝え方」ということをもっと重く捉えるべきだと感じました。

「死」は決して遠いものでなく、心と直結した危ういものである事を私達は理解しなければならぬと思います。

同じ心に届く言葉なら、優しさや相手を尊重する言葉であって欲しい。そっと手を差し伸べ、再び前を向ける力となる言葉でありたい。その時、その相手や目的、時と場にに応じて言葉を遣い分ける力を大切にしたい。

身近な生活のいたるところで存在するいじめや誹謗中傷。その言葉のナイフが優しく相手を包み込むものとなるように、私達は今一度、言葉の持つ力を信じ、心と心を繋いでいくことが必要なのではないでしょうか。

「心を繋ぐ言葉遣い」それが、今よりも、より良い友人関係や社会を創る第一歩なのではないでしょうか。

《大会成績結果》 代表者のみなさん、素晴らしい発表をありがとうございました

賞	氏名	学校名(学年)	演題	警察署
最優秀	渡辺 脩大	道志中 2年	心を繋ぐ言葉遣い	大月
優秀	上原 梅音	早川中 3年	防犯は人とのつながり	南部
優良	上原 心華	長坂中 3年	わたしは「私」らしく	北杜
入賞	横田 萌百	塩山北中 3年	言葉の・・・	日下部
	村上 泰造	小菅中 3年	ぼくはもってない	上野原
	十川 藍子	竜王中 3年	本当のつながりを求めて	甲斐
	山本 遥花	玉穂中 2年	SNSからの犯罪者、被害者をなくすために	南甲府
	高橋 岳	忍野中 3年	「紡」～支え合うということ～	富士吉田
	篠崎 凜音	若草中 2年	温かい言葉を世界に	南ア
	依田 涼花	増穂中 3年	言葉のもつ力	鯉沢
	植田 愛結	南中 1年	自分のこととして	南甲府
	神谷 駿太郎	春日居中 3年	誰もを信頼できる、心優しい社会を	笛吹
	清水 菜音	山梨英和中 3年	大切に守ろう 世界に誇る 山梨の桃	甲府

※入賞者の記載順については発表順となっています。